

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：13902
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2013～2016
 課題番号：25381185
 研究課題名(和文) 戦前期美術教育関係資料の収集、データベースとPDFファイルの作成、目的論等の分析

 研究課題名(英文) Collection of, Creation of Database and PDF Files, and Analyses of Teleology, etc. on, Materials concerning Pre-The Pacific war Art Education

 研究代表者
 磯部 洋司 (ISOBE, Hiroshi)

 愛知教育大学・教育学部・名誉教授

 研究者番号：70151446
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：先ず資料収集に関しては、栃木、三重、兵庫、山口、宮崎県など10県教育会機関誌と山口県男子師範・女子師範附属小学校機関誌を現地調査し、複写資料6,000枚ほどを得た。これに以前収集分を併せ、業者発注により6,000データ、12,000枚ほどのPDFファイルを作成した。
 データベースは道府県教育会機関誌、教育専門誌、図画・手工教育誌、旧高等師範附属学校機関誌などに掲載された図画・手工関連記事・論文、広告等、12,915データを数える。但し未入力分や既存データの見直しにより6,000以上の増加が見込め、これに別個図画教科書データ1,700を加え総数は20,000を超過するデータベースが完成する。

研究成果の概要(英文)：With regard to the collection of materials, we conducted field surveys of official magazines published by education boards in ten prefectures, including Tochigi, Mie, Hyogo, Yamaguchi, and Miyazaki, as well as magazines by elementary schools affiliated with men's and women's schools for teachers in Yamaguchi Prefecture, and obtained about 6,000 pages of copied materials. We have then combined them with previously collected materials, outsourced data processing, and created 6,000 data files containing about 12,000 PDF files.

研究分野：美術教育史

キーワード：図画 手工 美術教育史 目的 目標 教科書 軽視 無用視

1. 研究開始当初の背景

筆者は申請時の時点で過去 18 年、明治初期から太平洋戦争までの図画、手工に関する文献を博搜し、資料収集に努めてきた。収集した資料は美術教育史関連文献目録(パソコンソフト・ファイルメーカープロによるデータベース)とし、また主要なものを PDF ファイルにしてきた。

結果、収集した複写資料(と関係古書)の数は全部で 10,000 点に近くなった。

ただし、これまでは教科の設立された明治初年にまずは遡り、以後、時代を下る形で資料収集、分析作業を進めたために明治・大正期が中心となって、昭和時代をほぼ取り残してしまった。既存の資料目録に昭和期を加えてデータベースの更なる充実を図りたいと思うようになったというのが研究の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、期間内に出来る限り多くの昭和前期(太平洋戦争まで)及び、明治・大正期の図画・手工科に関する歴史的資料を収集し、このデータをデータベースに加えて美術教育史資料目録の拡充・完成を目指し、併せて、主要文献資料の PDF ファイル化を進める。そしてこれらの作業を行う中で、図画・手工教育の目的論・価値論等も検討していこうとしたものである。

3. 研究の方法

先ず資料収集に関しては、明治・大正期まで資料収集が済んでいる大分、山口などの県とこれまで手をつけてこなかった県の教育会機関誌を現地に赴き閲覧(郷土資料としてネットなどでは非公開のため)、複写し資料収集を行う。

収集した資料は発行年月日や誌名・巻号、発行所などを書き入れ、逐次パソコン・ソフトのファイルメーカー・プロで作成しているデータベースに追加登録するとともに、年度末に業者発注で PDF ファイルに書き入れることとした。

4. 研究成果

(1) 収集資料 各県教育会機関誌

当初予定した平成 25・26・27 年度と、延長を許された 28 年度を加えた 4 年間に現地調査を実施したのは、岩手県教育会機関誌『岩手教育』(岩手県立図書館、前回科研からの継続調査)栃木県教育会機関誌『下野私立教育会雑誌』下野私立教育会事務所・同仮事務所、『下野教育』下野教育会(栃木県立図書館、国立国会図書館)、山梨県教育会機関誌『山梨教育学会雑誌』山梨教育学会仮事務所、『山梨教育』山梨教育雑誌社・山梨教育会(山梨県立図書館、筑波大学附属中央図書館)、千葉県教育会機関誌『千葉教育』(千葉県立中央図書館、筑波大学附属中央図書館、

前回科研からの継続調査)三重県教育会機関誌『三重県私立教育会雑誌』三重県私立教育会事務所・三重県私立教育会『三重県教育会報』『三重教育』三重県教育会(筑波大学附属中央図書館、三重大学附属図書館、三重県立図書館)、奈良県教育会機関誌『奈良教育雑誌』『奈良教育』奈良県教育会(奈良県立図書館情報館、奈良教育大学附属図書館)、兵庫県教育会機関誌『私立兵庫県教育会雑誌』明輝社、『兵庫教育会報』私立兵庫県教育会、『兵庫教育』兵庫教育雑誌社・兵庫県教育会(兵庫県立図書館、神戸大学附属社会科学系図書館)、広島県教育会機関誌『芸備教育』広島県私立教育会(国会図書館、筑波大学附属中央図書館、以前に広島県立図書館、なお前誌『広島県教育会報』『広島県私立教育会雑誌』『広島県私立教育会報』は未見であり、また所蔵の関係と日程の都合で収集は一部に止まっている)、山口県教育会機関誌『山口県教育』山口県教育会(昭和分、前誌『山口県教育会報』『防長教育』、『防長教育時報』は以前に調査済み、山口県立図書館)、山口県女子師範学校附属小学校発行の『教育』、山口県師範学校附属小学校による『初等教育』(山口県立図書館)、大分県教育会機関誌『大分県教育』大分県教育会(昭和 2 年~19 年)発行分、明治・大正期の『大分県公立教育雑誌』『大分県公立教育会雑誌』及び『大分県教育』は複写済、大分県立図書館)、熊本県教育会機関誌『熊本教育』熊本県教育会(昭和分、前誌『私立熊本県教育会雑誌』『熊本教育会雑誌』『熊本県教育会報』及び『熊本教育』の明治・大正分は既に入手済み)(熊本県立図書館)、宮崎県教育会機関誌『日州教育会雑誌』日州教育会、『宮崎県教育』(1・2、改号)宮崎県教育会・宮崎県教育会事務所(宮崎県立図書館)の、12 県教育会機関誌と山口県男子師範・女子師範附属小学校関連の 2 誌、計 14 誌となった。

収集した資料の数はコピー総数で 6,000 枚ほど、データ数で 3,000 弱であると思われる。これらを含めて筆者のこれまで収集した資料の原典を分類すると以下ようになる。

創刊期から廃刊・休刊までのほぼ全期間を網羅した機関誌

岩手県、栃木県、群馬県、山梨県、新潟県、千葉県、神奈川県、長野県、岐阜県、三重県、奈良県、兵庫県、島根県、山口県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、台湾、朝鮮(19 県と 2 植民地)

創刊から大正 15 年(昭和元年 1926 年)まで収集の機関誌

秋田県、石川県、茨城県、愛知県、京都府、岡山県(6 府県)

一部収集に留まる機関誌

北海道、宮城県、福島県、富山県、東京府・東京市、大阪府、和歌山県、広島県、愛媛県、福岡県、長崎県(11 道府県)

となる。これら教育会機関誌掲載すべてがデータベース登録対象となり(現状ではまだ未

登載が多く残る) 多くが PDF ファイルとして入力済みである。

残す地方教育会機関誌は青森県、山形県、福井県、埼玉県、静岡県、滋賀県、鳥取県、香川県、徳島県、高知県、佐賀県の 11 県分となる。青森、埼玉など残存点数が少ない県や、四国の各県など交通にやや不便を感じる地を後回しにした結果である。大正期までの資料収集に止まる府県、一部収集に留まる道府県教育会誌と併せ、今後、機会を捉えて現地調査・資料収集を実施し、研究のさらなる充実を図りたいと考えている。

(2) 全国教育会機関紙、民間教育総合雑誌、高等師範学校附属小学校発行教育雑誌、師範学校同窓会雑誌、美術雑誌、美術教育専門誌等の収集資料の原典

今次科研究での収集は少ないが、都道府県教育会機関誌と並ぶ収集資料のもう一つ柱が、民間教育総合雑誌、高等師範学校附属小学校発行教育雑誌、師範学校同窓会雑誌、美術教育専門雑誌、美術雑誌、全国教育会機関紙及びその他(一般誌)である。誌・紙名(新聞を含む)と発行所を、それぞれ初刊の古い順に掲げることとする。誌名は基本的に創刊時のもので、収集点数の少ない一般誌や全国・地方新聞は省いてある。

民間教育総合雑誌(新聞を含む)

『内外教育新報』教育社、『教育新誌』汎愛社、『教育報知』教育報知社・東京教育社・教育報知社、『教育時論』開発社、『教育雑誌』賛育社、『国民之教育』興文社、『学芸之世界』賛育社、『教育評論』教育評論社、『教育』学海指針社・茗溪会、『普通教育』金港堂、『児童研究』教育研究所・富山房・児童研究発行所、『教育実験界』育成会、『日本之小学教師』国民教育社、『教育学術界』同文館・大日本学術協会・モナス、『教育公論』公論社、『教育界』金港堂、『国民教育』東洋社、『実験教授指針』教授法研究会、『教育新聞』教育新聞社、『初等教育』手工館・初等教育会、『中等教育』中等教育研究会、『国民教育』大日本国民中学会、『小学研究』弘道館・教育研究会、『教育界』明治教育会、『現代教育』現代教育社、『教育之実際』教育実際社、『普通教育』普通教育社、『教育問題研究』大日本文華出版部・文化書房、『教育論叢』文教書院、『内外教育評論』内外教育評論社、『教育の世紀』教育の世紀社、『教材研究』宝文館、『美育』晚成処

高等師範学校附属小学校発行教育雑誌

『教育研究』大日本図書・初等教育研究会(東京高等師範学校)、『学校教育』宝文館(広島高等師範学校)、『児童教育』宝文館(東京女子高等師範学校)、『学習研究』目黒書店(奈良女子高等師範学校)

師範学校同窓会雑誌

『東京茗溪会雑誌』東京茗溪会仮事務所(東

京高等師範学校)、『錦巷』錦巷会(東京美術学校)

美術教育専門雑誌

『図画教育』図画教育会、『日本図画教育』日本図画教育会、『図画と手工』不詳・錦巷会事務所・錦巷会編集部・東京美術学校錦巷会編集・錦巷会、『芸術自由教育』アルス、『学校美術』学校美術協会・図画工作社、『教育美術』教育美術振興会

美術雑誌(新聞を含む)

『絵画叢誌』東洋絵画事務所、『美術新報』画報社、『美術写真画報』博文館、『みずゑ』春鳥会、『中央美術』日本美術学院、『芸術教育』集成社、『図案と工芸』現代の図案工芸社、『アトリエ』アトリエ社

全国教育会機関紙及びその他(一般誌)

『大日本教育会雑誌』大日本教育会仮事務所・大日本教育会事務所『教育公報』帝国教育会事務所・『帝国教育』帝国教育会、『中央公論』中央公論社、『創造』教育実験社・創造社、『信州』同人社、『主婦の友』東京家政研究会、『中学世界』博文館、『少年倶楽部』大日本雄弁会、『太陽』東京博文館、『婦人之友』婦人之友社、『青年』日本青年館、『改造』改造社、『女性』プラトン社、『全人』イデア書院

以上が主だった雑誌・新聞である。前に取り上げた道府県教育会機関誌の多くが現地調査に依るものであるのに対し、後者の民間教育雑誌等は目次集成があり、復刻本があるものも多い。所蔵図書館に赴き冊子体(復刻版、コピー製本を含む)を実見して資料収集を行ったものもあるが、愛知教育大学附属図書館で復刻本を順次閲覧して資料収集をし、残りは目次集成等をもとに所蔵館に複写依頼することによって資料収集を行ったものである。ただ、ここに取り上げた資料の多くが 10 年以上前の収集で、当時は明治初期から大正期までを研究対象にしていたために昭和期を欠いている。折を見て収集を増やしたいと考えている。

(3) PDF ファイルの作成

以上に原典を列挙したが、入手した資料は電子複写(コピー)した A4(3 分の 2 ほど) B4(残りの殆ど)及び A3(ごく一部、岐阜県立図書館など B4 用紙の用意がない施設と大判教育会誌で縮小が認められない図書館での複写資料)の紙である。

資料にはすべて最初のページ(用紙、見開きが大部分を占める)の右上に「発行年月日」、「誌名・巻号」、「発行所」(今回と先回科研究は収集施設・所蔵館と収集年月日も)のデータを書き入れた。収集枚数が多いため、なかなか作業が進まず難渋したが、仕上がった資料はデータベースに逐次入力(登載)するとともに、PDF ファイルを作成することとし

た。今回の科研では前回の科研ほかで収集した分も含め紙の枚数で 12,000 枚、データ数にして 6,000 近くのコピーを業者に委託し PDF ファイル(CD-R に書き込み)を作成した。

PDF は雑誌(新聞)ごとにファイルを作り、それぞれ発行年月日の古いものから順に小ファイルにして保存してある。別個に作成しているパソコン・ソフトのファイルメーカー・プロで作成しているデータベースによりタイトル(教育思潮、教育運動、教育法令、教員採用試験、教材物品、画材、書籍名、人名など)、著者等任意の条件で検索した誌名・巻号を PDF ファイルで確認することができ、さらには原典を直接コピーした紙資料にあたることのできるわけで、これを公開することで後進の美術教育史研究者には極めて有用な資料となり得ようことは想像に難くない。

(4) データベースの拡大、充実

収集した図画・手工関連歴史資料は、先にも述べたように PDF ファイルにし、ファイルメーカー・プロで作成したデータベースに入力している。入力項目は「発行年月日」、「著者名」(所属の記載があればこれも。広告は出稿者・社)、「タイトル」(前次科研からは、本文や概要等の情報をできる限り入れるようにしている。特集号はその特集名も)、掲載「書名・巻号」、「発行所」、該当「ページ」としている。

登載データは現在のところ 12,915 で、A4 用紙に縮小印刷した場合、1 頁につき 58 データで、227 頁と半分ほどの量となる。データベースの最古の資料は 1878(明治 11)年 4 月 19 日刊行の『内外教育新報』に載った荻野仙吉(東京第八大区三小 h 区華園学校)による「油絵縦覧について」で、以下明治 11 年中に 7 件、翌 12 年 5 件、13 年 1 件あり 2 年空けて明治 16(1883)年が 3 件、17 年 13 件、18(1885)年 26 件と続く。17 年までは『内外教育新報』と『教育新誌』以外は長崎県・千葉県・京都府の教育会機関誌と全国組織の『大日本教育会雑誌』、高等師範学校(当時は後に東京高等師範学校となる当校のみが高等師範であった)同窓会機関誌『東京茗溪会雑誌』と公的な教育会誌が中心であったが、明治 18 年には民間教育総合誌の『教育報知』『教育時論』が創刊され発行点数が増加の一途をたどり、明治 19 年には 80 件、20 年には 134 と飛躍的に増加している。そうして明治 30 年代半ばころ(1900 年を過ぎたあたり)には全国各地の教育会雑誌が出揃い、また、『教育学术界』『国民教育』『日本之小学教師』『教育実験界』など民間教育総合誌が陸続と創刊され出版文化の爛熟期、言い方を変えれば教育史研究資料の黄金期を迎えるのであるが、ここでの詳述は避けることとする。

さて、このデータベースの利用である。「著者名」、「タイトル」などに任意の用語・人名

などを入れて検索をかければたちどころにヒットした資料が並ぶ。ソートをかければ年代順に並べ替えてくれるわけである。

例えば「岡山秀吉」(明治末期から昭和初期にかけての手工界の泰斗である)を「著者名」欄に入力すれば 1893(明治 26)年 6 月 30 日発行の『千葉教育雑誌』第 15 号から 1933(昭和 8)年 2 月 5 日の『三重教育』第 416 号まで、224 件が、「白浜徴」(明治末期から大正全期を通じての図画教育会の第一人者である)では 1911(明治 44)年 3 月 31 日発行の『島根県立私立教育会雑誌』第 285 号から 1924(大正 13)年 7 月 1 日付の『宮城教育』第 301 号まで 96 件が並ぶ。白浜は画家としても一流であったから、執筆数が少ないのは当然かもしれない。それにしても二人の業績には目を見張られる思いである。

今度は「タイトル」欄に「図画」を入れてみると明治 12(1879)年から(明治 14 年から教科名が図画に、それ以前は「畧画」「画学」である)昭和 19(1943)年まで 479 件が、手工(明治 19 年の創設である)は明治 19(1886)年から昭和 18(1943)年まで 507 件が勢ぞろいする。タイトルだけでも、それぞれの教育思潮の変化、流行等が読み取れる。この他「クレヨン」で検索し画像を用意し、クレヨンの登場等の事情について読み解いたが、ここでは紹介にとどめておきたい。

いずれにせよ、このデータベースは検索し簡単な情報を読み取ったうえで、該当資料を PDF ファイルかコピー資料で得る。このシステムがこの研究の命である。

なお、未入力 of データが 5,000 以上あり、見直し(広告など同じページに複数掲載され一括入力した資料の分割)により 1,000 データ以上の増加が予想される。つまりはあと 6,000 ほど増加できるということで最終的には 20,000 に近いデータベースにすることができるといふことである。精度を高める必要も感じている。筆者は現在、定年退職後再任用の特別教授 2 年目で任期は来年、平成 30(2018)年 3 月までであるが、残る期間に精一杯の努力をして情報量の多い、そして完成度の高いデータベースに育てていくつもりである。

当科学研究費助成事業の応募タイトルに「目的論等の分析」とあるので、最後に小学校の図画教育を例に簡単に触れておく。

明治 5(1872)年の畧画・画学の開始当時は、「絵は万国共通の言語なり」といった声が多く上がり、時代が進んで大正中期から昭和初期に関しては「情操教育」としての捉えが、そしてそれ以後、太平洋戦争期までは「生活」に直結する、生活に根ざすといった主張が目立つが、結局は教育法令に収斂するようである。例えば明治 24(1891)年 11 月 17 日付の文部省令 11 号の「小学校教則大綱」の目標、「図画八眼及手ヲ練習シテ通常ノ形体ヲ看取シ正シク之ヲ画クノ能ヲ養ヒ兼ネテ意匠ヲ練リ形体ノ美ヲ弁知セシムルヲ以テ要旨

トス」や、明治 40(1907)年 3 月 25 日文部省
令第 6 号「小学校令施行規則」の、
「図画ハ通常ノ形態ヲ看取シ正シク之ヲ画
クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨
トス」、「図画ヲ授ケルニ八成ルヘク他ノ教科
目ニ於テ授ケタル物体及児童ノ日常目撃セ
ル物体中ニ就キテ之ヲ画カシメ兼テ清潔ヲ
好ミ綿密ヲ尚フノ習慣ヲ養ハンコトニ注意
スヘシ」
などに見られる「眼と手の練習」、「形態を看
取し正しく画く」、「美感の養成」、「清潔、綿密
の習慣」(略し、カナはひらがなとした)な
どである。こうした用語に根ざした目的論が
公的には語られるわけである。現代の我々も
学習指導要領のとらわれるのは同じである。
戦前の教育者はより以上に強く法令を意識
し、順守したであろうことは想像に難くない。
当然の帰結ではあろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計 1 件)

磯部洋司・朝野皆子、日本におけるクレヨ
ンの普及に関する研究 大正 11 年の教育雑誌
の広告を中心に、美術教育学研究、第 46
号、pp.13-20、2014、査読有

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯部 洋司 (ISOBE, Hiroshi)
愛知教育大学・教育学部・名誉教授
研究者番号：7 6 1 5 1 4 4 6